

橋梁点検支援技術講習開く 熊本県道路メンテナンス会議



【熊本】熊本県道路メンテナンス会議（会長・福井貴規国土交通省熊本河川国道事務所長）主催による、橋梁の点検支援技術活用講習会が11月28日に開催された。写真

同会議では、定期点検を行う地方自治体職員等が点検支援技術に対する理解を深めることにも、その活用方法や留意点等に関する知識を習得してもらうことを目的に講習会を開催しており、今回

は熊本県や水俣市、芦北町、津奈木町などからおよそ20人が参加した。まず初めに八代河川国道事務所の服部浩一道路管理課長が「橋梁点検は費用や時間がかかるため、各自自治体で大変苦慮していると思う。点検支援技術を活用して少しでも負担を軽減できれば」などとあいさつした。講習会は、熊本県芦北町の日奈久芦北道路田浦高架橋（橋長約165m、幅員約10m）のP22、P23橋脚付近で実施。エイコー・コンサル

（MATRICE300 RTK+H20）▽損傷抽出支援システムMIM-M-AI▽赤外線調査トータルサポートシステムJシステム▽磁気による鋼材破断の非破壊検査法（Senriga N）の四つの技術が紹介された。国土交通省では、道路構造物の点検の効率化・高度化を推進するため、点検に活用できる新技術を取りまとめた「点検支援技術性能カタログ」を策定。直轄国道の橋梁・トンネルの定期点検業務については点検支援技術の活用を原則化しており、新技術の積極的な活用を求めている。